

経営者への活きた言葉

物事を完成する生き方 伊與田 覺(論語普及会学監)

1. 私が若い時分に懇意にさせていただき、感化を受けた恩人の一人に、蓮沼門三という方がいらっしゃいました。蓮沼先生は、日本の社会教育団体の草分けともいえる「修養団」の創設者としてつとに知られた方ですが、食事を共にする機会がある時などにしばしば「物事を完成するには、こういうことが大切なんだよ」と説き聞かせてくださった次の訓戒がいまでも大変印象に残っています。
2. 「点々あい連ねて線をなす。線々あい並べて面をなす。面々あい重ねて体をなす」。点と点を連ねて一本の線をつくる。その線を並べていくと面になる。その面を重ねていくと一つの体になる。自らの目標に到達しようと思えば、このような生き方を貫いていくことが重要なのです。
3. 「中庸」という古典には、この訓戒に通ずる教えが次のような言葉で表現されています。「至誠は息やむ無し。息まざれば則すなわちち久し、久しければ則ち徴しるしあり」。至誠(誠実)というものは、本気である。茶気(遊び心)ではない。内から湧き出て止まる時がない。休まずずっと続けていると、それまで見えてなかったものが見えるようになる。「徴」とは印、兆きざしのことです。誠実に、久しく物を続けることは、物事を完成する上で不可欠な姿勢なのです。

(参考:「致知」2014年2月号)

人事・労務について

100万人に1人の価値ある存在になる 藤原 和博(教育改革実践家)

1. 私の経験から言えるのは、1万人に1人、100万人に1人の価値ある存在になればどんな世の中でも生き残れるということ。では、どうしたらそうした存在になれるのか。大切なのは100分の1を掛け合わせることだ。どんな人でも1万時間をかければ今の仕事をマスターし、100分の1の存在になれる。もう1分野で100分の1の存在になって掛け算をする。100分の1×100分の1は1万分の1。3分野を掛ければ100万分の1で、同世代に1人の価値ある存在になれる。
2. 何をしようとして今後必要になるのは、情報の「編集」力だ。知恵を使い、情報をつなげて編集する力がカギになる。そのために、社内のチームのメンバーや取引先との共通点を探ってみよう。共通点が見つかれば信頼を得られやすくない。アイデアも生まれ、日常の改善も早く起きるようになる。

(参考:「日経ビジネス」:2013年12月30日号)